20220123　　猪高の森自然観察会　2022 年 1 月報告書

猪高の森自然観察だより　1 月号

開催日時：2022年 1 月 23 日（日）　9:30～12:00
天候：曇りのち夕方から雨
テーマ：冬芽と葉痕・野鳥の暮らし
参加人数・構成：　一般 15 名　（うち NACS-J 指導員 3 名、保護者の方 3 名）、小学生以下 3 名
コース：森の集会所　→　塚ノ杁池堤体　→　枕木道　→　竹林内　→　すり鉢池　→　三角池からの散策路　→　森の集会所

コロナウィルス・オミクロン株が蔓延しつつある社会状況にあっての開催でした。
野外での活動であり、みなさんマスクをし、ウィルス対策をされてのご参加なので、まずは安心して開くことができましたことを嬉しく思います。
1 月は例年に比べて低温の日が多く、雪が若干積もる日などあり、観察会当日も最高気温が5℃に届かない寒い日でした。

（画像は別の日に写したものを含みます）

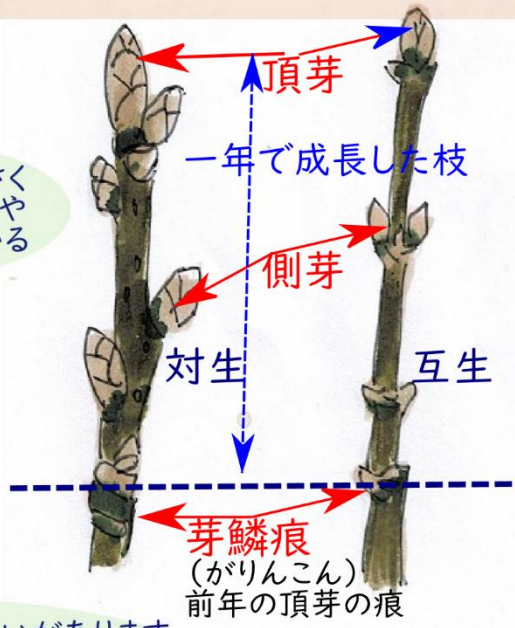
ふゆめ・枝・葉の落ちた痕跡の観察

トウガ・ガリン・リンガ・ラガ・インガ・ヨウガ・カガ・コンガ
ヨウコン・チョウガ・ソクガ・タンシ

どんな言葉？でしょうか。

冬芽（とうが）　：成長に適さない冬の期間、休眠して過ごす。
　　冬芽を休眠芽とも言います。
芽鱗（がりん）　：芽を包む鱗（うろこ）状のもの
鱗芽（りんが）　：芽鱗で包まれた芽
裸芽（らが）　：芽鱗をもたない芽
隠芽（いんが）　：葉痕に隠れている芽
葉芽（ようが）　：葉になるだけの芽
花芽（かが）　：花になる芽
混芽（こんが）　：葉と花が一緒に入っている芽
葉痕（ようこん）：葉が落ちたあとの痕跡
頂芽（ちょうが）：枝の先端につく芽
側芽（そくが）　：枝の途中につく芽
　　「腋芽（えきが」ともいう）
短枝（たんし）　：枝の伸びが短い枝
維管束（いかんそく）：根、茎、葉っぱまで通っている管のこと
葉腋（ようえき）：葉が枝につくところ、葉と葉柄の間

冬芽の中には小さく折りたたまれた葉や花の蕾が入っている



鱗芽に毛がついている冬芽もあります。

鱗芽（りんが）

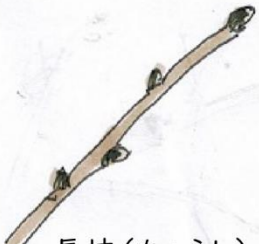
裸芽（らが）

葉痕は木の種類で違いがあります。
ハート形、V字形・・・
顔に見えるものもあります。
点に見えるのは維管束です。

点は維管束痕です。

葉痕（ようこん）

短枝（たんし）



長枝（ちょうし）

（前頁のイラスト画像は、水源の森と八竜湿地を守る会の細江様から頂いたデータに若干の変更を加えたものです。禁転載）

●集会所のセンダンの木から始めました

センダン：側芽、鱗芽（りんが）

前頁の言葉の説明をしながら、拡大鏡を使って、維管束痕の観察です。
右が拡大図です。ひとによりますが私には、「SFに出てくる宇宙人の笑った顔」に似ていると思っています。

アオキ：頂芽、混芽を切断した図

左は**アオキ**の頂芽を切断したところです。
丸いボツボツは将来花になる部分、包んでいる部分は葉になる部分です。
このような芽を「混芽（こんが）」と呼びます。
アオキの場合、一番先の頂芽は混芽になる場合が多いのですが、栄養状態が悪かったり、悪条件にあったりすると、花芽ができずに、葉芽のみになったりすることがよくあります。園芸種などで、花を楽しむ種類に良く起こりますので、育て方に注意しましょう。　（観察のため、特別にひとつのみ取りました。真似しないでくださいね）

●こんなハプニングがありました

足元にいました。（左の画像）
こんな冬の寒い日に戸外で見るのは初めてです。
ゴキブリ（クロゴキブリ？）の幼虫です。
ゴキブリは日本に約 50 種いるそうで、中には森林性で室内には入って来ない種類もいます。
2億年の昔から姿がほとんど変わっていない昆虫で、恐竜たちが大絶滅したあの時さえしのいだ強者（つわもの）です。（最新の研究で現生種目が分かれたのはこの時期との事です。）

右は集会所北側で 12 月と同様に越冬している、**ナミテントウ**、

中は集会所のトイレの**ナミスジフユナミシャク**、
左は**クロオビフユナミシャク**です。
　ナミテントウとフユシャクについては、前月号（12 月号）にも解説など載せていますので、参照して頂けると幸いです。

●塚ノ杁池にむかって

左は**ヤマハゼ**の冬芽です。
　裸芽（らが）なので、包んでいるものは何もありません。
　葉のある時期は触るとかぶれることの多い木ですが冬はまず大丈夫です。
　葉痕はハート型、毛が密生しています。

　左は**アオクサカメムシ**、図鑑では晩秋頃まで確認できるとされていますが、まだいます。
　右は、有名になってしまった外来種の**ミシシッピアカミミガメ**。普通カメはこの時期には冬眠しているはずですが、暖かい日にはこのように甲羅干しをしています。冬眠しない個体がいるのかも知れません。（アカミミガメの画像は別の日に撮ったものです）

●この日塚ノ杁池で見られた鳥たち

コガモ：冬鳥

（左）アオサギ、（右）カワウ：共に留鳥

オオバン：冬鳥、画像は別日撮影→

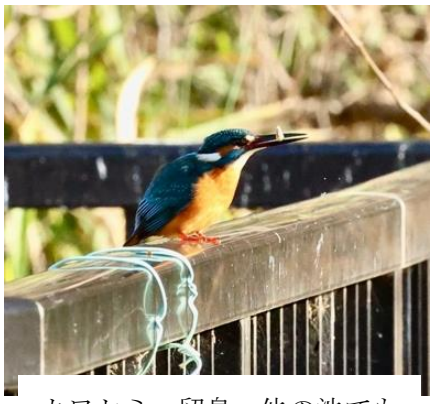
ここで鳥の図鑑を見るときの言葉の解説（簡略に）

・**冬鳥**：秋から冬に見られる。北の国で繁殖した後、秋に日本に渡ってきて冬越しをし、春に去ります。
・**留鳥**：1年中同じ地域で見られ、その地域で繁殖をします。ただスズメのような留鳥でも、その年の生まれの若い鳥などは長距離を移動することもあり、また、比較的短い距離を移動（秋に北から南、山から低地など）を移動する鳥を**漂鳥**と呼びます。
（日本野鳥の会　野鳥観察ハンディ図鑑より抜粋）
この他にも、夏鳥、旅鳥、さえずりなど順次言葉は解説します。
今年は、渡ってくる冬鳥がどの緑地でも少なかったようです。

よく知られ、テレビでもよく登場する**カルガモ**はカモの仲間での唯一の留鳥です。

★塚ノ杁池で見られる鳥たち・観察会の日には登場しませんでしたが、他にも
このような種類が今年は見られました

カイツブリ・留鳥、漂鳥



カワセミ：留鳥・他の池でも

コサギ：留鳥・他の池でも

コサギ（左）・留鳥と
ダイサギ：留鳥、漂鳥

モズ：留鳥、漂鳥・他の場所でも

「一時的に立ち寄る」という感じの鳥も多く、その日は居たけど翌日には居ない、なんていうこともよくあります。時には、ちょっと珍しい種類が立ち寄ることもあり、時々観ることがお勧めです。

●ぐるっと回ってすり鉢池へ

キリ（桐）の蕾
春になると、紫色の花を咲かせます。塚ノ杁池堤体の横に生えています。

堤体から見えた御嶽山
雪を頂いた姿も美しい。
お勧めのスポットです。

タカノツメ：短枝、鱗芽
タカノツメの名は冬芽が鳥の鷹の爪の形に似ているから。
前月号（12 月号）に詳しく紹介していますので、参照してください

アオキの虫こぶ：
アオキミフクレフシ

アオキの正常な実

左は**アオキミタマバエ**によって出来た虫こぶの**アオキミフクレフシ**、5月になっても正常な右のような実でなく、小さめの緑色の混ざったような実がついていれば、まず、虫こぶです。

しかしながら、この実の中にいるタマバエの幼虫に寄生するハチの仲間がいて、最後に出てくるのがその寄生バチのことがあるとか・・。厳しい虫の世界です。

（虫こぶについては 12 月号に解説があります。）

クズの冬芽（鱗芽）と葉痕

左の拡大図

葉痕の面白さはこれがあるからです。

ウサギの顔？寝ている髭のおじいさん？あなたには何にみえますか？

オニグルミの冬芽（裸芽）と葉痕

左の拡大図

これは、何でしょう？
ヒツジの顔でしょうか？

ゴンズイの冬芽（鱗芽）にこの時期と言うのにアブラムシがついています。アブラムシの仲間は、翅のある雌、翅のない雌、その中間型、卵を産む雌、子虫を産む雌、雄虫など様々なタイプがあるとの事。

すぐに増える訳ですね。

アブラムシ拡大図（５月に撮影）

ゴンズイの冬芽と
ゴンズイフクレアブラムシ

左は八重桜と伝えられるサクラの冬芽、右は**エドヒガン**（淡墨桜はこの種類）と伝えられるサクラの冬芽、違いがわかりますか？

左は芽鱗に毛がなく、右は白っぽい毛が生えています。桜の品種は200種以上ありますが、皆さんの近くにある桜はどちらでしょうか？ちなみに、よく植えられている**ソメイヨシノ**は、毛ありの品種です。上記の2本の桜は、すり鉢池の広場に並んで植えてありますので、ご覧になってみてください。

●すり鉢池の周りで見られた鳥たち（野鳥については 11 月号にも掲載しています）

シロハラ・冬鳥
よく林の中で、落ち葉をひっくり返して、ミミズなどを探しています。

ハクセキレイ・留鳥
幼鳥と一緒にいました。尾羽を上下に振る動きをよくします。

シジュウカラ・留鳥
さえずり（＊）が聞こえ始めています。

メジロ・留鳥
一番身近な野鳥です。ツバキやサザンカの蜜を吸いによく訪れます。

ジョウビタキ♀・冬鳥
すり鉢池によくいるのですがこの日は未確認でした。

モズ・留鳥、漂鳥
12月号で紹介したはやにえを作る鳥です。この日はアーチェリー場の付近にいました。

＊さえずり：繁殖期に主に雄が出す声。「雌を呼ぶ」「なわばりを宣言する」という意味があります。
決まった節回しで、美しい声が多い。（日本野鳥の会　野鳥観察ハンディ図鑑より）
シジュウカラは細い声でツーピーやツツピーを繰り返します。

●集会所に戻る途中にて

アーチェリー場の横の道脇に紅梅が咲き始めていました。
「**この猪高の森で一番早く咲く梅**」と教えて頂きました。
春の兆しが見え始めています。

すり鉢池の周りには、このほかに「マッチ棒のような赤い可愛い冬芽の**ドウダンツツジ**」「上から見ると五角形（合格形）で受験生に人気のある**アラカシ**の冬芽」、散策路の途中にはこれも受験生に人気の「冬でも葉の落ちない**ヤマコウバシ**」の木など、冬でなければ見られない事が沢山あります。

●番外編その①

1 月 14 日に雪が降りました。その時の景色をご紹介します。

集会所前の広場、
竹林やヤツデの雪化粧した姿、
これもまた、美しい！

●番外編その②

　1 月末に**ヌートリア**がこもれび池にて確認されました。
　ヌートリアは特定外来生物に指定され、日本の侵略的外来種ワースト 100 に選定されています。
　猪高の森にてヌートリアを確認された方は、名東自然倶楽部までご連絡ください。

冬には冬の猪高の森の姿があります。2 月の末は春の始まりです。

一緒に歩きませんか？

次回の猪高の森定例観察会は

2 月 27 日（日） 森の集会所集合　9:30～

「　テーマ：カエルの産卵を見よう・ほころび始めた木の芽たち」です